

シンポジウム | シンポジウム | [シンポジウム10] 在宅歯科医療シンポジウム：機能改善を望めない高齢患者の歯科診療指針策定のためのケーススタディ

シンポジウム10

在宅歯科医療シンポジウム：機能改善を望めない高齢患者の歯科診療指針策定のためのケーススタディ

座長：佐藤 裕二（昭和大学歯学部高齢者歯科学講座 教授）、小玉 剛（日本歯科医師会 常務理事）

2022年6月12日(日) 10:10 ～ 11:30 第1会場 (リューとぴあ 2F コンサートホール)

企画：在宅歯科医療委員会

＊認定制度指定研修

【シンポジウム趣旨】

従来は、歯科疾患の予防や咬合の維持、再構築は口腔機能を支え、QOLの維持や、生命予後をも延伸させると考えてきた。しかし、生命予後がある程度確定した時期においては、上記の取り組みは、意味を持たず、歯科疾患の発症をある程度受け入れざるを得ない時期が訪れる。また、歯科疾患が口腔機能や全身状態に重大な影響をしないうちに生命が尽きることが予想される場合には、歯科治療をしないことや、咬合の再構成をしないこともある。このような、機能改善を望めない時期に対する、歯科診療のガイドラインは存在しないが、諸家によって意見も分かれることと思われる。本シンポジウムでは、経験の豊富な4名の講師から、活動の経験をお話いただいた上で、具体的なケースに関して、総合討論を行い、「機能改善を望めない高齢患者の歯科診療指針策定」につなげたいと思う。

【このシンポジウムに参加すると】

- 1) 人生の最終段階における口腔内の状態を知る
- 2) 機能改善を望めない高齢患者に対する歯科医療の目標を考える

【佐藤 裕二先生 略歴】

1982年：広島大学歯学部卒業
1986年：広島大学大学院（歯科補綴学1）修了・歯学博士
1986年：歯学部附属病院助手
1988年～1989年：アメリカ合衆国NIST客員研究員
1990年：広島大学歯学部講師（歯科補綴学第一講座）
1994年：広島大学歯学部助教授
2002年：昭和大学歯学部教授（高齢者歯科学）
日本老年歯科医学会 前理事長，専門医・指導医，理事（在宅歯科医療）
日本補綴歯科学会，日本口腔インプラント学会，日本顎関節学会 専門医・指導医
第一種歯科感染管理者
昭和大学歯科病院ジェネラルリスクマネージャ

【小玉 剛先生 略歴】

昭和58年3月 城西歯科大学（現・明海大学）歯学部 卒業
昭和60年3月 東京医科歯科大学歯学部専攻生 修了（口腔外科学）
昭和60年6月 こだま歯科医院 開設
平成元年3月 東京医科歯科大学大学院歯学研究科修了（歯科理工学）歯学博士
平成3年4月～平成23年3月 東京医科歯科大学歯学部附属歯科技工士学校講師（非常勤）
平成5年4月～平成9年3月 東京医科歯科大学歯学部講師（非常勤・第二理工学教室）
平成17年4月～平成28年3月 明治薬科大学 客員教授
平成25年6月～平成29年6月 一般社団法人 東京都東久留米市歯科医師会 会長
平成28年3月～ 公益社団法人 日本歯科医師会 常務理事

平成28年3月～令和3年6月 公益財団法人 8020推進財団 常務理事
令和3年6月～ 公益財団法人 8020推進財団 専務理事

現在

東京都東久留米市立第六小学校 学校医（歯科）

東京学芸大学附属高等学校 学校医（歯科）

社会歯科学会 副理事長

日本老年歯科医学会 在宅歯科医療問題検討委員会副委員長

[SY10-2]機能改善を望めない高齢患者の歯科診療指針策定のためのケース スタディ

○三木 次郎 (三木歯科医院)

【略歴】

日本大学理工学部卒

日本大学松戸歯学部卒

自治医科大学歯科口腔外科ジュニアレジデント

三木歯科医院院長（現）

介護支援専門員

結城市歯科医師会長

日本在宅ケアアライアンス理事（現）

全国在宅療養支援歯科診療所連絡会 HDC 会長（現）

【抄録】

最期まで口から食べることは人の尊厳と言われている。終末期における口腔機能管理、口腔衛生管理によって最期まで口から食べられる機能を維持するということは、我々歯科の目標の一つでもある。

口腔摂取は乳・幼児期からの当たり前の行為で、誰でも最期まで口腔摂取できるものと思いきがちである。家族が最期まで口から食べさせたいと希望することもよく理解できるし、本人も健康な時は、みなそう望んでいる。しかし、口腔の機能改善が望めない場合や基礎疾患の種類や病状によっては口腔摂取を諦めなければならないこともある。

高齢になるに伴い口腔の機能的・器質的問題、認知症など精神的な問題、神経難病など、進行性・不可逆性の疾患の問題などが顕在化してくる。このような場面で歯科はどのように、そしてどこまで対応できるのだろうか。

今回、歯科的な立場からの人生の最終段階における歯科医療・歯科的なケアのかかわりについて考えてみたい。